

まごころをもち心身ともに健全で，地域から愛される生徒の育成

－学校・家庭・地域のふれあいを大切にしながら－

刈谷市立朝日中学校 吉田 幸和

1 はじめに

本校は，刈谷市の南部に位置し，生徒数 870 名，開校 22 年目を迎えた比較的新しい学校である。学区には，JR 東海道本線と主要な国道が通り発展を続けている。保護者は，他の地域から移り住み，新しく住民になった人たちが多く。こうした地域事情を考慮し，今後，学校を中心として地域やそこに住む人のつながりを深めていくために，人の気持ちの分かる人間，人のために行動できる人間に育ってほしいと願い，PTA や生徒，職員の意見を基に，平成 5 年 3 月に「まごころ」と校訓を決定した。そして，現在もこの校訓を核にし，「まごころをもち，心身ともに健全な生徒を育成する」ために，毎日の教育活動に取り組んでいる。

その結果，学校全体としては，一時期心配された問題行動が急激に減り，現在は落ち着いている。しかし，生徒同士の小さなトラブルが原因で不登校傾向になる生徒がいたり，学校でおとなしい子とされている生徒が問題を起こしたりする。また，自分に対して肯定的にとらえている生徒が少なく，学校ではあいさつをするが，地域ではそれができない生徒が多い。

このような生徒の実態を踏まえ，目指す生徒「まごころをもち心身ともに健全で，地域から愛される生徒」を育てるためには，学校・家庭・地域が協力して互いに共通理解をしながら指導をしていくことは重要である。そのために，学校での指導の在り方を見直したり，学校と家庭や地域との触れ合い方を探ったりして，目指す生徒を育てるための具体的な方法や内容を明らかにする必要がある。そして，実践しながら，これらの点を明らかにしていくことで，規範意識の高い生徒を育てることができると考えている。

2 研究の目的

生徒に生きる力となる豊かな人間性と社会性を育成するために，家庭や地域と共に道德教育を進める。例えば，学校・家庭・地域が一体となる体験活動を行ったり，学校生活全体に渡り，自他共に大切にすることを意識付けたりすることで，道德教育の一層の充実・推進を図り，まごころをもち心身共に健全で，地域から愛される生徒を育成することを目的とした。

また，研究の仮説を「道德の時間の学習内容を見直したり，体験活動とのかかわりで道德教育を進めたりする中で，学校・家庭・地域が相互に連携し，自己肯定感をもたせながら道德教育を進めていけば，規範意識が高まり，目指す生徒像『まごころをもち心身とともに健全で，地域から愛される生徒』を育成することができる」とし，実践を通して検証していく。

3 研究の内容

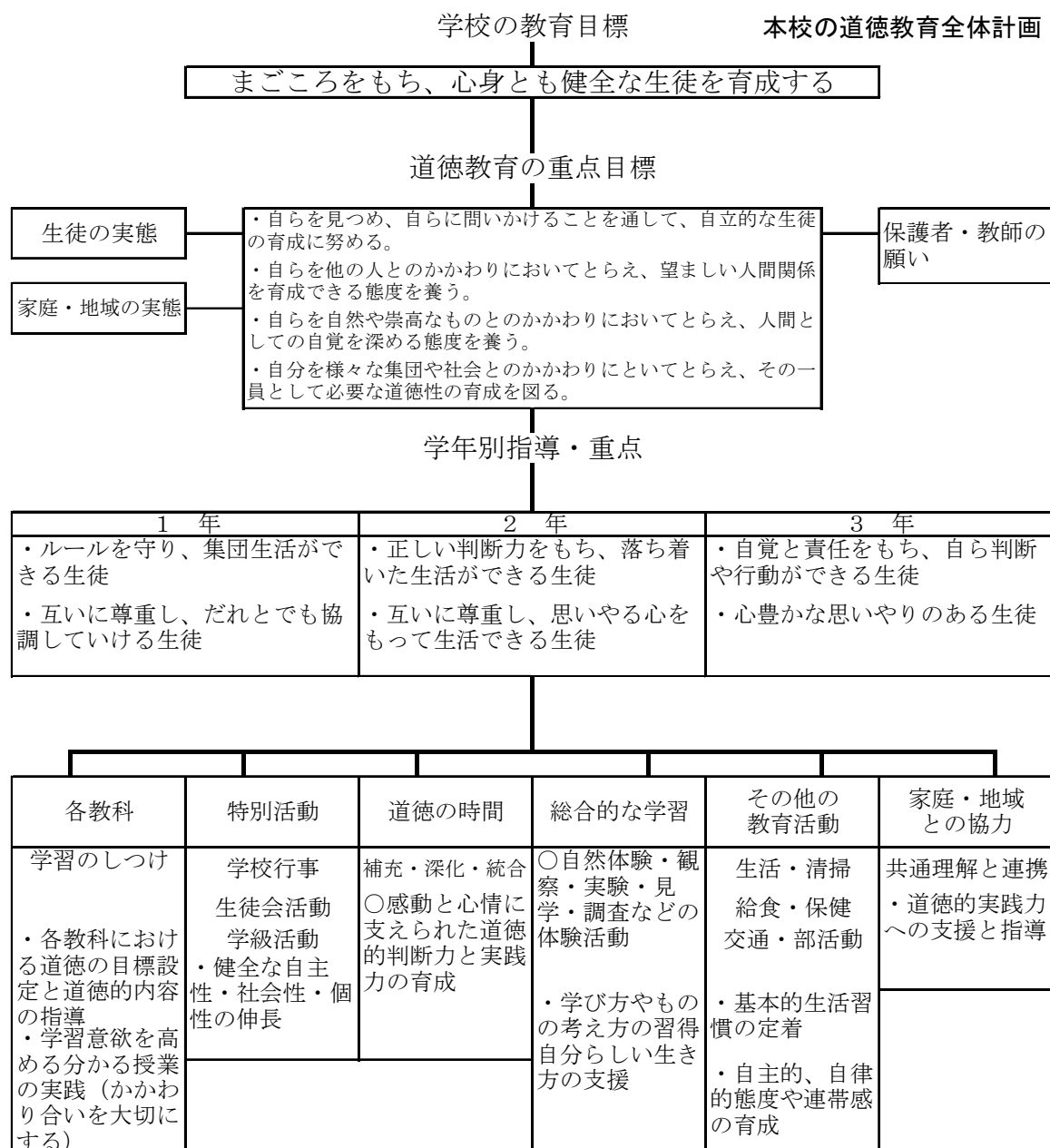
主題に掲げた生徒像に迫るために，以下の実践による生徒の変容を追っていく。

- ア 年間指導計画を見直し、かかわり合いを大切にした道徳の時間を計画的に実施する。
- イ 豊かな心を育てる体験活動を実施し、道徳の時間との関連をもたせる。
- ウ 学校・家庭・地域との触れ合いを深める活動を実施する。

4 研究の実際

(1) 年間指導計画を見直し、かかわり合いを大切にした道徳の時間を計画的に実施する。

本年度は、「まごころをもち、心身ともに健全であり、人から愛される生徒を育成すること」を道徳の目標とし、毎週の道徳の時間もこの達成を目指している。今年度、道徳教育推進教師を軸にして道徳の全体計画を見直し、各学年の道徳担当者が中心となり道徳の時間の年間指導計画を見直した。



そして、生徒の抱える課題を解決するために、生徒の実態に合った資料を選択したり、指導過程の工夫をしたりし、この時間の指導を進めている。毎週の道徳の時間は、各学年の道徳担当者が中心と

なり生徒の実態を基に、計画している。各担任が指導案を作成し、学年会にて指導案の検討をしている。1学期の学校公開日の4時間目に一斉に道徳の授業を行った。 **2年生の道徳年間計画（1学期）**

月	週	主 題 名	ね ら い	指導内容	学校行事等
4月	1	うちの総理ちゃん	1 ・かけがえのない生命を大切に、どんな状況でも精いっぱい生き抜こうとする気持ちを高める。	3-(1)生命の尊重	
	2	一人じゃないよ	1 ・人間としての誇りをもって、自ら誠実に考え行動して、その結果に責任をもとうとする気持ちを高める。	1-(3) 自律の精神、自主、誠実、責任	授業参観日
	3	ガランチード	1 ・わが国の文化を愛し、日本人としての誇りをもって生きていこうとする気持ちを高める。	4-(9)愛国心	
5月	1	開拓者の決心	1 ・他の人に対して深い理解と思いやりの心を持ち、温かい心で接しようとする気持ちを高める。	2-(2)人間愛、思いやり	
	2	プレーボール	1 ・相手の個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、謙虚に他に学ぶとうる気持ちを高める。	2-(5)個性尊重、寛容・謙虚	観劇会
	3	温かい笑顔を忘れずに	1 ・社会への奉仕と、進んで多くの人々に役立ちたいとするボランティアの精神を大切にすることを高める。	4-(5)勤労、社会奉仕、公共心	生徒総会 全校集会
6月	1	トランペット	1 ・身の回りを整えることの必要性を理解し、節度や調和を保って生活しようとする気持ちを高める。	1-(1) 望ましい生活習慣、心身の健康、節度と調和	
	2	母の反撃	1 ・家族の中での自分の役割を自覚し、互いに助け合い、明るい家庭を築いていこうとする気持ちを高める。	4-(6)家族愛	
	3 ・ 4	Vサイン	2 ・礼儀の意義を理解し、他の人に対して思いやりの心を表現しようとする気持ちを高める。	2-(1)礼儀	授業参観日 P T A 2年学年総会
7月	1 ・ 2	林間学校を成功させよう	2 ・林間学校という目標を目指し、自分なら何ができるのかを考え、それに向かってやり抜く強い意志をもつ。	1-(2)希望・勇気、強い意志	1日学校公開日
	3	天井が明るい	1 ・生きることの大切さを自覚して、生命を尊び困難に負けることなく、強く生きようとする気持ちを高める。	3-(1)生命の尊重	

1年の主題は、「役割と責任」。2年は、「強い意志」。3年は、「正義感」でそれぞれ実施した。その時の2年生の指導案は次頁のようである。生徒は、真剣に誘う側と誘われる側に分かれてロール



< 2年「強い意志」公開授業の様子 >

プレーをしていた。最初は、どうしたらよいのか困っていたペアもあったが、しだいに慣れ、相手を変えながら取り組んでいた。生徒の感想には、「恥ずかしかったけど、友達と触れ合い楽しかった」「みんなで守ることが大切であることが分かった」などであった。友達との触れ合いを通して、自分たちが取るべき正しい行動を、はっきりさせることができ、誘惑に負けない強い意志をもつことの大切さを実感した。その他の学年でも、多数の保護者の参加の下、保護者にもルールについて

考えてもらいながら、どの学級も落ち着いた雰囲気の中で授業が進められた。生徒は、ルールの意味や守ることの大切さをじっくり考え、自分の生活を充実させるためにルールが必要不可欠であることをかかわり合いながら学ぶことができた。

2年「強い意志」指導案

主な発問と生徒の心の動き	指導上の留意点
1 林間学校を成功させるために必要なことは何ですか。 ・準備をしっかりする。 ・一人一人が自分の仕事に責任をもつ。	・学習プリントを配付し、プリントに考えを記入させてから意見を発表させる。 ・机間指導をし、それぞれの意見を把握する。
2 林間学校のルールはどんなものが考えられますか。 ・不要物を持ってこない。 ・川で勝手に遊ばない。 ・時間を守る。 ・自然を壊さない。 3 不要物を持ってこようと誘う子と誘われる子に分かれて友達を誘ってみましょう。 4 もし不要物を持ってきてしまったらどうなりますか。 ・色々な人の信用や信頼を失う。 ・みんなに迷惑をかけてしまう。 ・学校のルールが厳しくなる。	・学習プリントに自分の考え記入させてから意見を発表させる。 ・机間指導をし、意見を確認する。 ・生徒同士でロールプレイングをさせる。 ・隣同士や前後などいろいろな子と行う。 ・本当に持ってきたいものを考えさせて、一緒にやりたいという気持ちを持って話し掛けるよう伝える。 ・誘われたときに断れなかった人数を確認する。 ・学習プリントに記入させてから意見を言わせる。 ・机間指導をし、それぞれの意見を確認する。
5 自分に対して、人に対して自分がどうすればよいのかを書きましょう。	・時間があれば記入させてからそれぞれの意見を発表させる。 ・次回は林間学校のルールを考えることを伝える。

(2) 豊かな心を育てる体験活動を実施し、道徳の時間との関連を持たせる。

1年生は「福祉実践教室」、2年生は「職場体験学習」、3年生は「保育学習」を主な体験活動として位置付け、道徳の時間との関連をもたせながら、道徳性の育成を行っている。

ア 2年—自分を見つめ、働くことを考える「職場体験学習」—

生徒に職業観や勤労観を身に付けさせ、自らが進路選択できるようにキャリア教育を推進している。職業に関する諸能力やコミュニケーション能力の育成、未来設計の資質向上を目指して実施した。

(ア) 働くことを問い、マナーを磨く「事前学習」



<マナー講座の様子>

事前学習として、自分の夢や願いを書かせ、働くことの意義や苦勞、そして喜びを考えさせる学習を行った。職場体験学習に向けて、ビジネスマナー講師の落合先生を迎えマナー講座を行った。おしゃれは自己満足であり、身だしなみは相手満足であることを教えていただいた。また、清潔感のある身だしなみや笑顔の作り方、あいさつの仕方などを実践的に学ぶことができた。今回のマナー講座では、人に接するマナーを学んでおくことは、未来の自分を見据える良い機会となった。さらに、教えていただいたことは、その後の学校生活や授業の中で定着を図っていった。お世話になる

事業者には、今回は生徒が中心となり依頼の電話をした。結果 122 箇所の事業所が依頼を受けてくだ

さり、その後、履歴書や依頼状を書き、事前打ち合わせに向けた準備を進めた。

(イ) 職場体験学習 (11/9～11/13)

ほとんどの事業所で5日間の職場体験学習を行うことができた。この体験学習では、働くことの大変さや難しさ、あいさつや言葉遣い、身だしなみなど、基本的な事柄の大切さを学ぶことができた。事業所からは、「事前の研修を受けてきたので、礼儀やマナーについては、何も教えることはありませんでした」や「3日目が過ぎた頃から、進んで仕事をやってくれた」などの感想をいただいた。反面、「積極的にやってくれる子とそうでない子の差があった」や「一生懸命やっているが、返事やあいさつの声が小さかった」などの、貴重なご意見もいただいた。

(ウ) 振り返りの活動で心を磨く「事後指導」

体験して学んだことを、それぞれがレポートにまとめ、振り返り活動を行った。レポートの形式は、「テーマ」や「仕事の内容」、「職場の人から学んだこと」や「感想」の概ね4項目であった。12月に入り報告会を行うために、準備を開始している。また、完成した学年テーマ「未来の“自分”を切り拓く職場体験学習」のレポート集を持参し、各事業所にお礼訪問に出掛けた。生徒は、それぞれにやり遂げた達成感や成就感を得ることができた。この訪問後に、担当で反省会を開いた。課題としては、職場体験学習が5日間であり、受け入れの事業所を探すのが大変であったことや生徒の希望する職種に偏りがあつたり、希望する職種の受入先がなかったりしたことなどであった。また、事業所と学校の連携をさらに密にする必要性を感じた。

生徒の体験を参考にしながら、主題名「本当のボランティア」「社会への奉仕」「人を思いやる心」の3つについての資料を作成した。そして、3学期には、この資料を基に「社会への奉仕」を道徳の時間で取り上げた。今まで使っていた資料以上に、生徒の考える意欲を高め、進んで社会のために尽くし、よりよい社会を築いていこうとする気持ちを高めることができた。

イ 3年一幼児と触れ合い、自分を見つめる保育学習一

家庭科の「家族と家庭生活」の単元と総合的な学習の時間及び道徳の時間を関連付けて実践している。幼児との触れ合いを通して、人との触れ合いの大切さや子供が育つ環境としての家庭や地域の役割に気付くとともに、現在の自分を見つめ、これからの自分の生き方を考えるきっかけになることをねらっている。

(ア) 1学期【幼児と楽しく遊ぼう 2時間実習】

まず、「自分を見つめよう」ということで、詩「いのちのバトン」や絵本「赤ちゃんてね」などから赤ちゃんの不思議を学んだ。その後、自分の幼い頃の様子を調べそれを発表し、マイブックにまとめさせた。次に、幼児の体や運動機能の発達を考えるために赤ちゃん人形を抱っこしたり、資料で調べたりした。マイブック作りでは、自分の保護者に熱心にいろいろなことを尋ね、誰もが丁寧に作ることができた。第1回目の保育実習の計画では、それぞれがマイテーマを決めてから実習に参加した。学校に戻ってから、保育実習で見付けたことをまとめさせた。



< 幼児と楽しく遊ぶ様子 >

ここでは、幼児と遊ぶ中で幼児の姿や遊びの様子をはっきりとらえさせ、幼児は遊びの中でいろいろな学習をしていき、幼児にとって遊びは大切であることを気付かせるようにした。

(イ) 2学期【幼児とふれあおう 半日実習】

幼児の生活習慣について考えさせ、第2回目の保育実習の計画を立てさせた。幼児のよりよい成長をキーワードに、学習を進めた。それぞれが、自分の課題をもち、幼児の成長を重点にした触れ合い方を考えさせた。保育実習後は、前回と同様に保育実習で見つけたことをまとめさせた。生徒は、「幼児は、周りのいろいろな人とかかわりの中で育つこと」「幼児であっても相手のことを思いやる優しい心を持っていること」「まじめに話を聴いてくれる人を好きになること」など、幼児と真摯に触れ合った結果いろいろなことに気付くことができた。実習後に、幼児の成長にとってよりよいかかわり方を求め、クラスで話し合い活動をさせた。幼児との実際に触れ合った後なので、それぞれ自分の担当した幼児を思い出しながら、真剣に自分の意見を言ったり、友達の話の聞いたりしていた。その後、子供を取り巻く環境や子育て支援制度、子どもの虐待について、学習を深めていった。

(ウ) 3学期【幼児の心をつかもう 1日実習】

3学期に入り、第3回目の保育実習計画を立てさせ、実践した。生徒各自が明確な計画を立て、幼児の心をつかめるように支援を行った。実習に行く前には、絵本の魅力を知らせるために、すべてのクラスに読み聞かせの会を設定し、地域の講師から、絵本の魅力をどう幼児に伝えるのかを教えていただく機会を設けたことも効果があった。

この一連の体験を通して自分と向き合うことができたり、今まで自分の成長を支えてくれた人たちへの感謝の思いをもったりすることを期待している。そして、規範意識を高めながら、それぞれの生徒が、自分の人としての生き方や在り方を見つめるきっかけとなるように今後も学習を深めたい。

(3) 学校・家庭・地域との触れ合いを深める活動を実施する。

ア 10月31日の課外授業について

生徒と地域の人々との触れ合いを通して、地域の力を学校に取り入れたいと考え、以下の2点をねらいとした。一つ目は、学区及び学区近隣の地域に住み、それぞれの分野で優れた技能をお持ちの方たちを地域の先生（講師）として招き、課外授業を設定する。そして、生徒は自分の取り組みたい教室に参加し、地域の先生と触れ合う中で、その人の心と技や生き方を学ぶ。二つ目は、保護者にも、協力と参加を呼び掛け、家庭・地域・学校の連携を図ることである。

(ア) 講座と地域の先生の決定

課外授業がスタートした頃は、1学期からPTA役員や職員が中心となり、課外授業の地域の先生を探していた。しかし、現在は、課外授業が地域に浸透してきたこともあり、概ね昨年度の実施案を基に地域の先生を決定することができている。そのため、講座の内容変更については、学年の実態に合っていないものについて他の学年と入れ替えをしたり、多少新しくしたりするだけになってきた。本年度も、1学期より電話で講師依頼を始めた。昨年度講座をもっていた先生方は、誰もが快く引き受けてくださった。先生によっては、「電話を待っていました」という方もいて、「昨年楽しくやらせていただいたので、今年もぜひお願いします」という声が聞かれた。今まで、この「課外授業」を積み重ねてきた結果だとうれしく思った。本年度も、3学年で40講座、地域の先生99名の参加で開催した。



<講座「知立山車文楽」の様子>

(イ) 課外授業当日の様子

インフルエンザのために、3年生の講座が実施できなかった。その関係もあり、各講座の受付についてはあまり混雑することもなく、講座の荷物運搬についても、PTAの地区委員や学年委員が中心となり、荷車やエレベーターを使い、スムーズに各講座場所に運搬することができた。また、講座ごとに、講師とPTA担当者との打合せも十分に行うことができた。時間前に、各学年の打合せ会場には、代表生徒が地域の先生を迎えてに来ていて、生徒のやる気を十分に感じた。

生徒は自分たちの取り組みたい講座を選択したこともあり、この授業を1学期からとても楽しみにしている。折り紙の講座では、講師の先生が、「作品の内容が例年より難しく、生徒が最後まであきらめないで作品を作ってくれるか心配であった。しかし、時間を延長しても生徒は集中して取り組んでくれた」と、生徒の活動の様子を褒めていただいた。また、講師さんとPTAの担当者が、講座が終わっても作品について楽しそうに話している姿を見掛けた。その他の講座でも、「生徒さんがこんなに一生懸命やってくださるとは思わなかった。来年もぜひやりたい」と感想を述べていた。PTA担当者の感想では、「こんなに素直に生徒さんが活動してくれて、うれしかった。担当者をやって生徒や学校のことがよく分かった」というものが多くあった。

(ウ) 成果

講師の先生は地域の方が中心であり、それぞれの講座の中で講師の先生と心の交流を深めることができていた。また、講師の先生と共に真剣に活動する中で、講師の先生の技や生き方を感じ取ることができ、地域の人たちと心を通わせる活動ができていた。そして、今後この課外授業が、本校の生徒が、触れ合うことの大切さを学ぶ機会になればと考えている。

昨年度も講座の運営をPTA講座担当者に依頼した。職員からは、「今年も、講座の司会を保護者がやってくれた。とても助かった」という、感想が出てきた。また、保護者に、生徒と一緒に講座に参加してもらおう中で、生徒と触れ合い、本校の生徒を理解してもらおう良い機会になった。来年度は、さらにPTA担当者の役割を見直し、地域と職員が共につくり上げるよう改善していきたい。

イ 父親の参加



<おやじの会「総会」の様子>

1学期当初より運営に関するアンケートを実施して、「おやじの会」の設立準備を始めた。その結果、10月24日に「おやじの会」の総会を開催することができ、本格的に活動を始めることとなった。最初は、10月31日（土）の課外授業の駐車場係としてのボランティア活動を行った。今後の計画では、親子でJR東刈谷駅周辺の清掃を行ったり、校内環境の美化活動を行ったりする予定である。そして、このような活動を通して、生徒の規範意識を高めたいと考えている。

本年度、元PTA会長の発案により、過去2～3年のPTA役員が賛同して「おやじの会」を立ち上げるようになった。設立の趣旨は、「学校・家庭・地域の連携を深める機会、地域の方々と接する機会、親同士の交流する機会づくりをし、生徒のモラルを向上させるため」である。保護者たちが中心となり、学校活動や地域活動の支援を行い、生徒が安全で安心に過ごせる地域づくりに少しでも役に立てばと考えている。

ウ 家庭や地域との連携を深める

学校での様子を家庭や地域に伝え、共に指導していき、生徒を育てていくことは重要である。そこで、学校だよりや生徒指導だよりを家庭に配付するだけでなく、地域の郵便局やJAの支店、銀行などに掲示している。また、学校のホームページを使って、最新の学校の情報を保護者に知らせている。このようにして生徒の良さや活動内容を家庭や地域に紹介することで、本校の生徒のモラル向上を目指す教育に対して、さらに理解や協力を得ている。今年度は、定期的に保護者にアンケートを実施している。そのアンケートには、生徒のモラルについて触れているが、アンケート結果を比較することで、モラル向上への取り組みの成果を把握したいと考えている。

5 研究のまとめと今後の課題

(1) 成果

ア かかわり合いを大切にしながら道徳の時間を実施したことで、生徒は、クラスの中に自分を見いだすことができ、落ち着いて学校生活が送れるようになった。そして、生徒は、学校や社会のルールを守ることで、互いに安心して生活できることを理解し、規範意識を高めようとする姿勢が見られるようになってきた。

イ 豊かな心を育てる体験活動を実施し、道徳の時間との関連をもたせることで、生徒は、実際に体験したことを基に、自分のとるべき行動を振り返り、正しい行動を強くイメージできるようになってきた。そして、周りの人に感謝する気持ちが育ってきた。

ウ 学校・家庭・地域との触れ合いを深める活動を実施したことで、保護者や地域の方が、今まで以上に本校の生徒を見守ってくれている。そして、生徒の良い点や悪い点を情報提供する方が増えた。また、PTAの朝の立ち番指導の方の感想に「あいさつがよくなるようになった」「横断歩道の渡り方もよくなってきた」という内容が増えてきた。地域に愛される生徒、規範意識をもった生徒が育ちつつあることが実感できた。

(2) 今後の課題

今後の課題については、以下の3点である。

ア 体験活動と道徳の時間のかかわりを更に密にする。

イ 「おやじの会」については、保護者の思いを大切にしながら生徒の規範意識を高めるように進めていきたい。

ウ 地域の行事へ生徒が参加するためのシステム作りをする。

特に項目ウについては、地域には地域に根ざした行事があり、地域の方々も生徒が参加することを望んでいる。しかし、地域の方々には、生徒は部活動や学習があり忙しいなどの理由で参加できないと考えていることが多い。そこで、学校が地域の行事を把握し、生徒に地域の行事に参加するように呼び掛けることで、地域の行事に参加する機会を増やしたい。そして、地域の活動に生徒が生き生きと参加することで、より地域から愛される生徒を育てていきたいと考えている。

6 おわりに

目指す生徒像を育てるために、今まで本校で行ってきた教育活動の質を高めながら、無理のない範囲で様々な活動を行ってきた。本年度は、まだスタートの年であり、一つ一つの手だてが、十分検証できないままである。今後も継続研究していく中で、規範意識を高めるための本校としての手だての有効性を明らかにしていきたい。